



オアシス

文責：学長
桑原雅次

出雲芸術アカデミーだより 2023年5月30日発行 第61号

令和5年度が始まりました。この「オアシス」も6年目となりますが、内容を心機一転しようと思っています。いままでの内容は、公演後の様子や感想などが中心でしたが、コンサートへ向けての取り組みなどを紹介し、PR効果を一層高めていけるような方向へ転換しようと思っています。しかし、「オアシス」という表題も変わるわけでもありませんし、執筆者も変わりません…。PR効果を高めようとする一心で励もうと思っていますので、今後とも変わらせずよろしくお願いいたします。

IZUMOpera コーナー

※このコーナーが公演PRとなります！

いよいよ交響神楽第六番《國譲》へ向けて始動します！ そのコンサート当日の予定は以下のとおりですが、変更になることもありますのでご了承ください。

【グランドフィナーレ】

神(シン)フォニック・フェスティバル～MA・TSU・RI！

- ◆期日：2023年10月29日（日）
- ◆会場：出雲市民会館
- ◆チケット：前売一般3,000円、当日3,500円
- ◆プログラム：プレトーク（公演前）

【第1部】①邦楽アンサンブル（オープニング）

②万九千社立虫神社神代神楽保存会

【第2部】平野一郎：交響神楽 第六番〈國譲〉 **世界初演**

【第3部】①久石譲：「千と千尋の神隠し」組曲

②エルガー：「威風堂々」【Jr.フィルと共演】（フィナーレ）

- ◆ソリスト：妻屋秀和（バス）ほか
- ◆出演：出雲フィルハーモニー交響楽団・合唱団
出雲フィルハーモニー・フェスティバル邦楽合奏団
- ◆指揮：中井章徳、畑山洋平（邦楽）



2022 出雲の春音楽祭から

10月開催のグランドフィナーレコンサートに向けて、公開リハーサルも実施いたします。期日は、7月15日（土）、10月21日（土）です。公開リハーサルについては、交響神楽第六番〈國譲〉が中心となります。

交響神楽第六番〈國譲〉は、多層的な声楽セクションが壮大であり、声部も22パートに

次ページへ

分かれるという、これまで経験したことのない合唱といってもいいかも知れません。しかし、平野一郎氏の作品は、第一番から第五番、間奏曲までの経緯から察するに、楽譜だけを見ると絶句することがあっても実際に音を奏でると美しくかつダイナミックに響きわたるなど、新しい音楽観が味わえるととても興味深い作品です。



合唱パートも本格的な練習が始まりました。素晴らしい曲であることには間違いないので、皆さんと励ましあいながら作りあげていきましょう！ まずは、7月に開催される公開リハーサルに向け頑張りましょう！ また、オーケストラとの合わせもとても楽しみです。

音楽院指導者会から

今年度から、本アカデミー事業体制が変わります。出雲芸術アカデミー事業を大きく公演事業と人材育成事業の2つに分けたことです。お互いが相互補完をしながら効率よく各事業が展開できるようにすることが変更の目的です。詳細については、令和5年度の「音楽院受講の手引き」をご覧ください。

さて、先般の指導者会の折に、当日の新聞から、3つの記事について紹介させていただきました。★1つ目は、バイオリニスト・五嶋みどりさんの記事で、師であるバイオリニストのアイザック・スターンさんから受けた指導感でした。師は、「こうしなさい」「あしなさい」ではなく、「どうしてあなたはそう弾いているの？」「作曲家が何を意図しているの？」「あなたはどう考えているの？」と、とにかく考えさせたことでした。★2つ目は、神奈川フィル管弦楽団と京都市交響楽団でコンサートマスターをされている石田泰尚さんの「おやじのせなか」欄からの引用でした。何事にもどっしりと構えていた父には安心感があり、大切なことを決断する時は必ず父に話をされていたとか…。そして、それらの事に対し、父の寄り添った返答に「父がそういうなら大丈夫」といつも感じたそうです。そのような環境で育ったことで、今のコンサートマスターの姿勢として、常にオーケストラの中心にいてぶれてはいけない精神力を父の姿から学んだのかもしれないと回想されていました。★3つ目は、新聞記者自身が、我が子のランドセル選びから考えさせられた事例です。入学前の兄についてきた幼い次男は真っ赤なランドセルを背負いご満悦だったとか…。これに父は「女の子がよく選ぶ色かもよ…」と言ってしまう…。次男は翌年、灰色のランドセルを選んだそうです。何気ない大人の一言が、もしかしたら子供の道を狭めていないかというものでした…。

指導者会の翌日、五嶋みどりさんの続編が掲載されていました。「できる者の責任」とあり、『現代は、数字や目に見えるものや、膨大な情報にさらされがちであり、そんな社会にあって目に見えない音楽の重要性について考えています。楽器で音を鳴らすのは、紙に書いてあるものを聞こえるもの、感じるものにするのです。責任を持ち、できる立場の人間が何か社会がよくなるために還元していく活動を重視しています。』とありました。

この3つのエピソードは、学ぶことがたくさん隠れているように思い紹介させていただきました。それぞれの立場で考えてみてはいかがでしょうか…？

【このたよりは、本アカデミーホームページでも掲載します <https://www.izumo-zaidan.jp/academy/>】